

20033

急性心筋梗塞患者の心機能変化に対する比較検討

¹千葉西総合病院、²千葉西総合病院、³千葉西総合病院

二階堂 由美¹、渡部 惇¹、阿部 翔太¹、持田 慶彦¹、竹内 卓矢¹、渥美 真紀¹、金子 健二¹、林 貞治¹、大熊 吉徳²、三崎 敦史³、川崎 智広³、飯塚 大介³、廣野 喜之³、倉持 雄彦³、三角 和雄³

【はじめに】急性心筋梗塞（以下AMI）により心筋はダメージを受け心機能低下を来す。心機能の改善はQOLに大きな影響を与えるため検討が必要と思われた。

【目的】当院にて治療を施行したAMIに対し心機能変化を比較検討した。

【対象及び方法】2011. 1. 1～2011. 12. 31に当院で治療を施行したAMI：150件の内、長期的に経過の追えた症例72件（男性：58名、女性：14名、年齢：63.2±11.9歳）を対象に、年齢別・治療部位別・Risk factorの罹患数・再灌流時間・多枝病変による心機能の変化を、治療直後の心エコー検査（Ejection Fraction:EF）を基準とし、最大上昇率の比較検討を行った。※但し再灌流時間を検討するため、発症時間の不明確なものは症例から除外した。

【結果】EFの改善が見られた群と改善が見られなかった群とで比較した結果、年齢別では50歳以下では改善率が高いのと同時に低下率も大きかった。治療部位別では改善が見られた群では、LADの改善率が最も高く改善が見られなかった群ではRCAの改善率が最も低かった。一枝病変と多枝病変でのEF変化率に差はほぼ得られなかった。また、Risk factorの罹患数についても両群でほぼ同じ罹患数であった。再灌流時間においては、改善が見られた群は再灌流までの平均時間が4時間22分、改善が見られず低下した群の平均時間は6時間8分であった。

【結語】今回の結果において、若年層は改善も早い、心筋が壊死する進行も早いと思われる。また、再灌流時間が早い方が心機能の改善が見られた為、今後はDoor To Balloonをいかに短縮するか検討の必要性を感じた。